

不登校生徒の支援について

不登校児童・生徒の状況

令和5年度は、不登校や欠席しがちな生徒が各学年に10名前後いる。学習意欲はあり登校したいが教室に入ることができずに別室にて学習している生徒は10名程度いる。要因として、学習の遅れ、進路への不安、対人恐怖、友人とのトラブル等が挙げられる。

具体的な取組

○校内での取組み

教育相談部会（月3回）において、現状把握と確認を行い、その内容は企画委員会や各学年に周知し、全校での協力体制を構築している。登校できない生徒が、学習を希望する生徒には、区の教育支援センターとの連携を図っている。

○スクールカウンセラー等との連携

不登校が続いている生徒は、スクールカウンセラー（週3日）や養護教諭、不登校担当教員による相談や支援を受けており、カウンセリングによる情報も共有し、早期対応に取り組んでいる。

○デジタル機器の活用

「hyper-Qu」や「教育ダッシュボード」を活用し、意識調査や学習集団の特長など、様々な価値観の把握を行っている。

「home&school」は、生徒の出欠連絡や毎日の様子などを、気軽に家庭から連絡ができる手段として活用している。

また、オンラインを活用したチャットや面談、授業配信も生徒の状況に合わせて行っている。

○不登校生徒の居場所作り

教室に入れない生徒には、別室の学習室を用意し、学習室にはエアコンを設置し、机、椅子も明るい色の物に換えた。学習指導は、非常勤教員が行い、学習以外にも体育館でバドミントンや卓球などをして体を動かすことや、プランターで、ミニトマトやナス、スイカなどの栽培も行っている。



成果

関係機関やSC、養護教諭、相談員等との相談や指導を受けられていない生徒はいなく、別室の学習室を利用する生徒が、昨年の2倍（最大10人）となっている。そのうち3人は教室での授業を受けることができるようになっている。

課題

支援が必要な生徒に対して支援できる人の数が足りておらず、検討した対策が十分に実施することができないことが課題である。

デジタル機器を活用した不登校生徒の支援について

不登校児童・生徒の状況

当該生徒は、友人とのすれ違いをきっかけに、学習への苦手意識なども重なり不登校となった。相談指導教室や別室対応、時差登校、オンライン授業など本人が選択して取り組めるようにすることにより、生徒が一人で登校しＳＣと面談を通した支援を行い、学校行事の見学に参加し、放課後に担任と面談することができるようになった。

具体的な取組

不登校生徒と学年教員が個別にやり取りができるように、オンラインでのプライベートチャンネルを不登校生徒ごとに作成し、いつでも学校と不登校生徒がチャットのやり取りをできるように整備している。担任だけでなく、不登校生徒からも連絡ができるため、安心して学校とつながりをもつことができている。

不登校生徒が安心して登校し、過ごすことができるよう、保健室や相談室等の別室対応の環境整備を行っている。毎週、登校支援会議を設けて、別室対応の状況を確認している。学級担任は、生徒や保護者と面談を実施し、教室復帰につなげている。



毎月、学校生活アンケートといじめに関するアンケートを隔月で実施し、いじめが疑われる回答や、不安や悩みを抱えている回答がある場合は、個別に聞き取りを行っている。全教員が教育ダッシュボードで個々の生徒の状況を確認し、生徒理解を深めつつ、生徒への効果的な支援と早期支援を促進している。

毎週、登校支援会議を実施し、不登校生徒についてアセスメントに必要な情報を共有するとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーから具体的な対応策について助言を受けている。生徒や保護者がスクールカウンセラーとオンライン面談ができるようにし、具体的な助言などを受けられている。

成果

別室登校やデジタル機器を活用した不登校生徒の支援により、不登校生徒を前年度より約 1.5%減少させることができた。また、不登校生徒と担任がオンラインを活用して、よりつながりをもつことができ、学校と全くつながりをもたないことがなくなった。

課題

学力面において、不安を抱えている不登校生徒の登校支援にまでは至っていない。個別最適なオンライン学習の環境を整えていく。